

私の電化製品たち



戸田 博子

私たちの生活に今は電化製品は欠かせないものになっている。私にとりこれらは、一種の生き物になっている。だから、汚れを拭いたり、調子を整えるため健康診断（点検）をしたりして、丁寧とはいわないまでも仲間としてのいたわりを持って接してきた。

それが良かったのか、元々丈夫な人たち（製品）だったのか分からないが、全員（全部）老年期でありながら元気に（稼働）している。

しかし、世の中では困るのだ。トラブルが起こっても修理の部品が全く無くなっている。点検・掃除をしてもらうたびに、「部品交換はできません」と念を押される。

ちなみに年齢は、エアコン 26 年、クリーンヒーター 30 年、洗濯機 24 年、続いてテレビ 16 年、冷蔵庫 13 年で、小物はともかく、今の時代では 5 年、10 年の寿命が業界の常識らしい。

電化製品ではないが、我が家のミシン 125 年、オルガン 125 年、ピアノ 65 年、自動車 29 年とアンティークショップの様だ。

どれも一応元気（？）に動いているが、いつバツタリ倒れるかわからない。



以前は 21 歳の三毛猫もいた。

現に持ち主である私は、去年の 11 月に大動脈解離を起こし道で倒れて死にかけた。医大病院の前だったため、診断が直ぐにつき緊急に手術を受けた。上行大動脈を人工血管に付け換え、

なんとか回復したが、製品だったらその時点で廃棄だっただろう。

また同居の 97 歳の母は私の病気と同時期に大腿骨転子部骨折し、チタンを挿入手術後リハビリ中である。ひと昔前なら寝たきりになったと思う。

人間は古く（老齢）になっても切り捨てられない。新しい電化製品は消費電力も少なく、温室効果ガスも排出が少ない。便利にできているし使うにも親切にできている。「取り替えたら」「温暖化対策になる」と沢山の人から言われる。

でも製品も人間も新しいときは、迷惑をかけないで元気だった。古くなって使い辛くなった製品だったら切り捨てるのは、悲しい。

ただ洗濯機はさすがに動かなくなった。「ご苦労様」とお別れすることになった。

これからも我が家は旧友たち（製品）の機嫌を取り、また自分の身体、母の回復を願いながら生活していこう。

ならやまの活動も 20 年近くになり、会員の方々も歳を重ねた方が多くなってきている。ご自分の身体と相談されながら活動し、ならやまの生物にも優しい心を持って行動されている。

きっとお宅の無生物とも心を通わせて、生活されているのではと想像しているのだが……。

